

令和7年度 学校評価自己評価書（豊山町立志水小学校）

経営理念	学校教育目標 … 力いっぱいがんばる子の育成
	めざす児童像 … 進んで学ぶ子 仲よく助け合う子 元気でたくましい子
	めざす教職員像 … 子どもを大切に作る教職員 学び続ける教職員 協働する教職員

資料1

【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった

経営目標	重点目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて
○進んで学ぶ子（確かな学力）の育成	・学習習慣の確立と基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 ・自己教育力を培う役割を担う学校図書館の活用	1	大橋飯田小川	①授業の導入で前時の振り返りをしたり、練習プリントを活用したりして、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。 ②「ばっちりメニュー」や「わくわくメニュー」の取り組みを通して、自分に合った家庭での学習習慣を身に付けさせ、児童の自己学習力を高めさせる。 ③基礎学力の定着を図るための漢字・計算コンクールを実施し、個に応じた指導に生かす。 ④朝の読書や読書週間を設け、たくさんの本や多様な分野の本に親しむ機会を増やす。 ⑤調べ学習等で、図書室や学習室の図書を活用した指導を行う。 ⑥単元に関連した本を教室に置き、児童の自己教育力を培う。	①授業の導入で前時の振り返りをしたり、練習プリントを活用したりして、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図ったか。 ②「ばっちりメニュー」や「わくわくメニュー」の取り組みを通して、自分に合った家庭での学習習慣を身に付けさせ、児童の自己学習力を高めさせることができたか。 ③基礎学力の定着を図るための漢字・計算コンクールを実施し、その結果を基にして、個に応じた指導に生かすことができたか。 ④朝の読書や読書週間を通して、たくさんの本や多様な分野の本を親しむように指導したか。 ⑤調べ学習等で、図書室や学習室を活用した指導をしたか。 ⑥単元に関連した本を教室に置き、児童が本に興味をもつ機会を増やすことができたか。	児童 ①③. 4 ②③. 4 ③③. 4 ④③. 0 ⑤②. 9 ⑥②. 8 保護者 ①③③. 1 ②②. 8 ③②. 8 教職員 ①③. 1 ②②. 8 ③②. 9 ④②. 9 ⑤②. 9 ⑥②. 9	①おおむね基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている。 【参考数値】 ・2学期漢字コンクール賞受賞者 315人中 金125人 銀43人 銅25人 ・2学期計算コンクール賞受賞者 315人中 金42人 銀38人 銅57人 ②家庭学習に対する保護者の評価があまりよくなかった。 ③多くの児童が漢字・計算コンクールに向けて、意欲的に取り組んでいることが分かった。 ④図書に関するアンケートに多くの児童が「とてもできた」「まあまあできた」と答えた。 読書ビンゴの達成率が高く、児童が意欲的に活動することができた。 【参考数値】 ・読書ビンゴを達成した児童の人数299人中111人 ・授業で図書室を利用した回数（4月～1月） 平均10回	②家庭学習について、引き続き「ばっちりメニュー」や「わくわくメニュー」の取組の様子を保護者にホームページで定期的に知らせていきたい。 ③結果を基に、個に応じた指導をどう充実していくかが課題である。 ④学級での図書室利用回数はそれほど多くなかったため、学級活動や国語の調べ学習での活用を促していきたい。 ⑤図書フォルダにある「授業に関する本の一覧表」を各学級に配付して、活用できるようにしたい。
	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善 ※「聴き合い、学び合う」活動 ※「つなぐ」「もどす」ことで対話をつくる教師の役割 ※自己選択・自己決定や学びを自覚する振り返り ・体験的な活動の充実を支えにした深まりのある授業展開	2	渡邊林鷲澤	①「分からないから教えて」と言える学級作りを基盤として、考えを聴き合い、学び合う場の設定をする。 ②児童の小さな気付きや発言等を学級全体につないだり、児童の発言をもとに学級全体に問い返したりするなど、対話をつくり、思考を深めるための教師の指導言を工夫する。 ③主体的な学びになるように、自己の学びを振り返る時間を継続的に設ける。 ④動画やインターネットで学ぶだけでなく、具体物に触れたり、施設を見学したりする体験的な活動を取り入れ、深い学びになるよう指導法を工夫する。	①分からないことを聴いたり、考えを伝え合ったりするなど学び合う場を設定することができたか。 ②児童の気付きや発言等を学級全体につないだり、問い返したりするなど、対話をつくり思考を深める指導言を工夫できたか。 ③自己の学びを振り返る活動の充実を図ることができたか。 ④体験的な活動を指導計画に設定することができたか。	児童 ①③. 4 ③③. 3 ④③. 5 教職員 ①③. 3 ②③. 2 ③②. 9 ④③. 3	①②教師が聞いたり、伝え合ったりする場を意図的に設定できた割合が高かったため、児童も分からないことを友達に聞いたり、意見を伝えたりする意識の高まりが見られた。また、教師が児童の気付きや発言を学級全体に「つなぐ」「もどす」ことを意識的に取り組んだこともその要因と考えられる。 ③④具体物との関わりや施設の見学など、体験活動を多く取り入れたことで、児童が学びに役立っていると感じているため、今後も継続していきたい。 【体験活動】 1年（水族館）2年（水族館、町探検、給食C、社教C、夏野菜の世話、サツマイモの世話）3年（町探検、消防署、警察署、学校周辺の防火設備探査、長さや重さの測定等）4年（犬山浄水場、ごみ処理場、木曾三川公園、航空ミュージアム）5年（野外学習、トヨタ産業技術記念館）6年（明治村、修学旅行、模擬裁判）	③児童は振り返りが、学びに役立っていると感じているため、教師が1時間や単元ごとにどのような振り返りをするとういかを、さらにイメージを高めて取り組めるとよい。
・多面的・多角的に考えて議論する道徳科の充実	3	宮外原田佐藤	①話し合い活動やワークシート、タブレット活用などの指導方法を工夫することで、自分の体験や感じ方、考え方を言語化したり視覚化したりして伝えさせる。 ②さまざまな見方や角度からの考えを交流し、話し合いを深める学習活動を行わせる。 ③自己を見つめ、道徳での学びを「自分事」として考え、これからの生き方に生かしていくことを見通せる場を設ける。	①話し合い活動やワークシート、タブレット活用などの指導方法を工夫することで、自分の体験や感じ方、考え方を言語化したり視覚化したりして伝えさせることができたか。 ②さまざまな見方や角度からの考えを交流し、話し合いを深める学習活動を行わせたか。 ③自己を見つめ、道徳での学びを「自分事」として考え、これからの生き方に生かしていくことを見通せる場を設けたか。	児童 ①③. 4 ②③. 4 ③③. 3 教職員 ①③. 1 ②②. 8 ③③. 3	①伝え合う方法を固定せず、各教員が児童の実態や内容に応じて、さまざまな方法で意見を交流させたことにより、児童アンケート、教職員アンケートともに数値が高い結果となった。活発な意見交換が行われていることが伺える。 ②児童アンケートの数値結果は高いが、教職員アンケートの数値結果は低い。これは話し合い活動は行われているが、教職員が期待する、話し合い活動の高まりや期待する価値の深まりが見られていないためと考える。 ③主に授業後半において物語から離れ、「自分なら」と考える機会を多く設定したことから児童・教職員とも評価が高い。これからの生活に生かそうとする姿が増えていることが分かる。	②話し合い活動において、今後はさらに深まりが生まれるように、授業研究や現職教育で外部講師の方による講演等を行ってもよいのではないかと考える。	
○仲よく助け合う子（豊かな心）の育成	・共感的な関係作り、自己の可能性の追求、思いやりと自己有用感を育む活動の実施 ※児童会活動や縦割り班活動の充実 ※自他の存在を大切にする取組	4	長谷川後藤村松	①企画運営委員会と代表委員会を中心に、異学年交流のお楽しみ集会、全校集会を企画・運営し、縦のつながりが深まる活動を工夫する。 ②縦割り班を編成し、清掃やお楽しみ集会、縦割り班遊び等の活動を行い、高学年に役割をもたせ、自己有用感を育む。 ③縦割り清掃の反省会では、掃除を通して互いを認め合う活動を取り入れ、自己有用感を育む。 ④縦割り班の6年生に対する感謝の気持ちをメッセージカードに書き、6年生にプレゼントする。 ⑤1年生と6年生とのペア活動や読み聞かせなど、異学年での交流を行い、思いやりや感謝の心を育む。	①⑤異学年との心のつながりをもたせられたか。 ②③児童の自己有用感を高めることができたか。 ④⑤思いやりや感謝の心を育むことができたか。	児童 ①⑤③. 4 ②③③. 1 ④⑤③. 4 教職員 ①⑤③. 1 ②③②. 8 ④⑤③. 1	②③児童は縦割り班でがんばっていた所を認め合ったり、班のリーダーとして活動したりすることで、自己有用感の高まりを感じていることが分かる。	②③他学年との交流を通じて、高学年には自己有用感を高める活動を、低・中学年には認め合う活動を行わせる活動に重点を置きたい。また、清掃時に振り返りの時間を十分にとったり、さまざまな児童が意見を言えるように声掛けを工夫したりすることでより自己有用感が深まるのではないかと考える。 お楽しみ集会や縦割り班遊びでは、他学年との交流が生まれ、縦のつながりが深まっているので、今後も継続して行っていきたい。
○元気でたくましい子（健やかな体）	・気持ちのよいあいさつ、返事の励行 ・児童の心に寄り添った多様な教育相談活動の実施	5	畠野山崎小林	①進んで挨拶ができるよう、あいさつ運動を行ったり、学校外で保護者や地域の方にも挨拶ができるよう、学級・学年で継続的に指導をしたりする。 ②自己指導能力を高めるために、時間を守って行動できるように声掛けをし、チャイム前着席を徹底させる。 ③自己指導能力を高めるために、身の回りの整理整頓を心掛させる。 ④教職員は1人でも多くの児童の名前と顔を一致させ、児童の安心感を高めるとともに、いじめなどの問題が児童から訴えやすい環境を学校全体で作る。 ⑤担任は、1日の生活の中でクラスの児童全員と言葉のやり取りをする。担任以外は、挨拶等を通して児童とのコミュニケーションを図る。 ⑥毎朝「心の天気」を入力させ、自身の心の健康を意識させるとともに、児童の様子を把握する一助とする。 ⑦いじめに関するアンケートや教育相談、チャンス面談の実施やあのねボックスを設置する。児童の不安感や困り感を教職員が把握し、いじめや不登校を未然に防止するために活用していく。 ⑧いじめ不登校等対策会議を実施し、職員間の共通理解を図る。 ⑨保護者との連絡を密にし、家庭と学校の共通理解に努める。また、家庭と連絡を取った内容は学校や学年で情報を共有する。	①児童は、進んで挨拶・会釈をすることができたか。 ②時間を守って行動させることができたか。 ③下駄箱やロッカーの整理整頓を心掛かせることができたか。 ④⑤⑥毎日、児童とコミュニケーションを取り、児童の様子を把握することに努めたか。 ⑦児童が安心して生活できる環境を作ることができたか。 ⑧職員間で情報共有を図ることができたか。 ⑨保護者との共通理解を図ることができたか。	児童 ①③. 4 ②③. 4 ③③. 4 ④⑦③. 4 保護者 ①②. 9 ④⑤⑨③. 2 教職員 ①③. 0 ②③. 1 ③③. 0 ④③. 2 ⑤⑥③. 5 ⑥②. 7 ⑦⑧③. 4 ⑧⑨③. 6	①挨拶に関しては、今年度も生活委員会を中心にさまざまな取組を行った。朝のあいさつ運動では、生活委員が毎日門の前に立ち、あいさつ運動を行った。挨拶をしてよかったエピソードを募集する「あいさつポスト」や、5月、9月、12月には「ハイタッチ」を取り入れたあいさつ運動を行った。4月に比べ児童の顔が上がり、挨拶を進んで行う児童が増え、生活委員よりも先に挨拶をする児童も見られた。 ⑤⑥教職員アンケートでは評価が高かった一方、心の天気の利用に関しては低い評価であった。これは、日頃から先生方がタブレット端末を通さずとも、児童と直接コミュニケーションをとれている結果であると考えられる。 ⑧⑨教職員間で、「問題行動」や「共有すべき事案」が起きたときには積極的に情報共有をした。関係のある先生方と報告、連絡、相談を行うことができた。生徒指導上の問題が起きてしまったときには、「諸問題」として職員が閲覧できるフォルダーを作り、重要な事柄を記録した。また、いじめ不登校対策委員会で月ごとに「いじめ」「欠席状況」「諸問題」について情報共有を行った。	①評価を見ると、児童と保護者・教職員とで評価の開きが見られた。児童は「挨拶をすることができた」と捉えているので、児童の姿を認め、伸ばしていきたい。今後も日々児童と接する大人も積極的に挨拶をし、安心して過ごすことのできる志水小学校にしていきたい。 ⑤⑥今後、必要に応じて心の天気などのコミュニケーションを図るツールを用いながら、児童との関係を築けるようにしていきたい。 ⑧⑨次年度も丁寧な生徒指導や児童対応のために続けていきたい。

【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった

経営目標	重点目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて
○元気でたくましい子 (健やかな体)	・健康な生活習慣づくりと食育の推進 ・体育的な行事・活動と遊びの充実	6	齋藤 伊藤実 河瀬	①健康的な生活習慣の育成のため、年8回元気アップカードを実施する。 ②児童と保護者を対象に学校保健委員会を実施し、生活習慣と睡眠について講演を行う。 ③ランニングカードを活用して、志水っ子ランニングや休み時間、体育の授業を行い、運動習慣の定着を図る。 ④なわとびカードを活用し、なわとび運動を実施し、身体能力の向上を図る。 ⑤運動会を企画し、心身の健全な発達や健康の保持増進などについての関心を高め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行う。 ⑥栄養教諭より食事のマナーについて、1年生児童と保護者、2年生児童を対象に食べ物の栄養について指導する。 ⑦食育指導を通して、バランスのよい食生活の定着を図る。	①②健康的な生活習慣を意識して過ごすことができたか。 ③ランニングがんばりカードを通して、進んで運動に親しむことができたか。全校児童がランニングカード1枚目を走破できたか。 ④自分で決めたなわとびカードの目標を達成することができたか。 ⑤学級や学年、全校児童で協力して、規律ある行動をしたり、積極的に運動に親しんだりすることができたか。 ⑥⑦食育指導を通して、バランスよく食事をとることができたか。	児童 ①3. 4 ②3. 1 ③4. 2 ④3. 6 ⑤3. 3 ⑥2. 8 ⑦④⑤3.1 ⑧3. 0 教職員 ①3. 4 ②3. 1 ③3. 4 ④3. 3 ⑤⑥⑦3.2	①元気アップカード期間中は、健康を意識して取り組んでいる児童が多い。 ③④⑤短縄と長縄でカードを分けたことで目的に応じて取り組み姿が見られた。また、縦割り班の長縄、学級での長縄集会では、それぞれが声をかけ合って協力して行うことができていた。学級の長縄は、回数を重ねることに記録を伸ばすことができた。なわとびやランニング集会のときは外に出て積極的に運動している児童が多い。 ⑥⑦1年生の親子給食では、楽しく給食を食べることができたとともに、栄養教諭からの講話が保護者からも好評であった。2年生で給食センターの見学を行い、給食を作っている方々の大変さを知ることで、児童にとって意義のある活動となった。	①元気アップカード期間中の意識が、その後に継続しないのが問題点ではないかと考える。元気アップカードの取り組みの見直しを図る必要がある。 ②なわとびやランニング集会が終わったあとの運動の継続につなげていくための策を講じていく必要がある。 ⑥⑦次年度は「給食を好き嫌いせずにご飯を食べることができましたか」という質問ではなく、「苦手なもの、少し食べることができましたか」と変更し、少しでも食べられる児童を認めていきたい。また、合わせて保護者への協力も促していきたい。
○開かれた信頼される学校づくり	・地域のボランティア、ゲストティーチャーの活用 ・家庭や地域と教育目標を共有し、学校改善を進めるための学校評価の実施 ・学校公開の充実とホームページ、学年だより等を活用した情報発信	7	教頭	①教科の学習内容に沿った出前講座、地域や家庭のボランティアの活用等の計画を立てる。 ②事前打合せを行い、本時のねらいを明確にするとともに、事後評価し、次年度への記録を残す。 ③前年度実施アンケートの意見を生かすとともに、学校教育目標・重点目標に基づき、具体的な取組を計画的に行う。 ④自己評価書を公開し、学校運営協議会での意見を反映して評価結果をまとめる。次年度に向けた改善方を全教職員で具体的に検討する機会を設ける。 ⑤地域や保護者の方が学校を訪れる機会を状況に応じて設け、授業の様子を公開する。 ⑥学年便りや保健便りを月1回、必要に応じてその他の便り等を発行し、学校の取組について情報発信をする。ホームページを随時更新し、児童の様子を知らせる。	①地域や外部ボランティア、ゲストティーチャーを活用することにより、学校生活の充実が図れたか。 ②本時のねらいを明確にするとともに、事後評価し次年度に向けて記録を残したか。 ③学校評価の取組を計画的に行い、学校教育目標・重点目標に基づいた「具体的な取組」について実践することができたか。 ④全職員で具体的に検討して、自己評価書をまとめることができたか。 ⑤地域や保護者の方に、学校公開を行うことができたか。 ⑥各種便りやホームページを活用し、学校の取組や児童の様子を知らせることができたか。	保護者 ④2. 0 ⑤⑥3. 3 教職員 ①2. 8 ②2. 8 ③2. 9 ④2. 7 ⑤⑥3. 2	①外部講師を招いての出前講座を精選し実施することで、学習内容の充実につながった。 【出前講座】 3年(自転車教室・人権教室・リコーダー指導)4年(福祉実践教室)・5・6年(保護者による仕事の話)・6年(福祉実践教室・租税教室・薬物乱用防止教室・戦争体験伝承会・琴教室)、全学年(読み聞かせ・どんぐり読書会)、クラブ活動(琴) ③④学校評価の取組の記録、実践、自己評価書へのまとめについて、評価を昨年度と比較すると、数値が少し減少している。 ⑤運動会、作品展・学校公開を実施し、保護者に学校の様子を直に見ていただくことができた。 ⑥保護者アンケートの数値は昨年度より高くなっている。 【HP更新数・閲覧数 学年だより・学校便り・保健だより等の発行回数】 学年だより・保健だより 年13回発行 ホームページ記事数 184件(2月16日現在)	①「出前講座一覧表」に、次年度に向けての評価を記録し、引き継いでいきたい。 ③④班別会議の在り方や、取組内容の見直しを図るなど、教育活動をより充実したものとしていきたい。また、学級経営案を作成するにあたり、重点目標に基づいた「具体的な取組」について意見交換を図る場を設ける。更に、学期ごとに学級経営について振り返り、次学期に向けての方針・改善点を考える。 ⑤⑥PTA総会・学級懇談会のみでは、保護者に本校の教育目標及び重点目標を直接伝えることが難しい。今年度11月から学年だよりや下校時刻表などを文書で配付するとともに、情報発信ツールで送信する形としたが、今後もホームページや情報発信ツールを活用し、子どもの学が姿や保護者への発信をより充実していきたい。
○教職員の資質向上	・教材と向き合い、子どもと向き合った授業の構想 ※子どもを主語とした授業づくり ・OJTによる効果的・効率的な研修 ・現職研修の充実と授業力向上を目指した教員同士の授業参観・主体的交流	8	鷲澤 小林	①学年間や担当者間で情報を共有することを大切に、若手教員が相談しやすい環境を整え、児童への指導やさまざまな取組に生かす。 ②授業研究を計画に沿って行うとともに、研究授業以外にも他学級の授業を参観する機会を自ら設け、授業力の向上を目指す。 ③各部会で研究授業を実施し、振り返りや見直しをもった授業展開が子どもの主体的な学びにつながっているかの意見交換を行い、自らの資質・能力の向上を図る。	①学年間や担当者間で情報を共有し、よりよい学校づくりに向けた取組を考え、実践することができたか。 ②授業研究を計画に沿って行い、授業力向上のため、他学級の授業を参観する機会を設けることができたか。 ③各部会で研究授業を実施し、振り返りや見直しをもった授業展開が子どもの主体的な学びにつながっているかの意見交換し、資質向上に努めたか。	教職員 ①2. 6 ②2. 8 ③3. 0 ④3. 3	①よりよい学校づくりに向けた情報交換は、おおむねできている。 ②研究授業以外にも、他学級の授業を参観する機会をもった方は8割近くいた。 【参観回数】 学期に2回以上…5名 学期に1回…6名 年間1～2回 …5名 参観していない…4名 ③情報交換はするものの、振り返りや単元構想といったことについては、授業時数の点から難しいと感じている。	②研究授業など以外で参観する機会を設けることは難しい。授業力向上に向けて、参観する機会を設けるために、教科担任制の導入や空き時間を増やすなど、学校組織のシステムについて考えていくことも視野に入れていく必要性も感じる。 ③振り返りや見直しをもった授業展開など、教師同士で情報共有する場を短時間でもいいので設定していくとよい。
○業務改善に向けた職場環境の整備	・さまざまな課題に対して協力し合える体制づくり ・業務の見直しと効率化 ・定時退校の推進	9	校長 山田	①困っていることがあれば共有し、知恵を出し合って対応する。報告・連絡・相談を、学年間、担当者間等で確実にし、共通理解の下、チームで事に当たる。 ②必要な業務かどうか検討し、業務を見直し効率化を図る。 ③「かえるボード」を利用し、退校時刻を意識して仕事をする。	①報告・連絡・相談体制が機能し、チームで事に当たることができたか。 ②業務の見直しと効率化を図ることができたか。 ③退校時刻を意識して仕事をすることができたか。	教職員 ①3. 3 ②2. 9 ③2. 9	校務分掌で困ったことがあったときに相談できたという実感がもてた職員は、昨年度から微減し「3. 3」であった。しかし、報告・連絡・相談体制が機能しているかについては、ほとんどの教職員が「できた」と回答している。会議や生徒指導全体会以外でも情報共有を意識することが多くなった。また、職員一人一人が職員間のコミュニケーションを大切にしている雰囲気を感じられた。 常勤の職員21名については全員、毎月の在校時間状況記録の提出ができた。月45時間以上の超過勤務は4月5名、5月5名、6月2名、7月1名。8月0名、9月0名、10月4名、11月0名、12月0名、1月0名であった。昨年度と比較すると、超過勤務の実態は改善されてきている。自分で退校時刻を決める「かえるボード」はおおむね活用されており、決めた時刻に帰ることができている職員が多い。	経験の浅い教員や本校1年目の教員を職員全体で支え、ともに学び合い・支え合い・成長する職員集団を目指し、会議の在り方や方法を工夫したり、報告・連絡・相談をこまめに行ったりして、一人で悩みを抱え込まない体制をつくりたい。 生徒指導や個別に支援が必要な児童の支援など、チームでの対応ができるように、情報共有と取組の方向性について検討する。そのために、管理職及びミドルリーダーの発信が重要になる。 会議での資料や要項、児童への配付物等で今後もICTの活用を進め、合理化をさらに推進する。

学校関係者評価 (その他の意見・改善策等)

○進んで学ぶ子(確かな学力)の育成
・漢字・計算コンクールについて、子どもたちがより基礎学力を高められるような実施の仕方を検討していけるとよい。
・字形が整った文字が書けるように指導していただきたい。

○仲よく助け合う子(豊かな心)の育成
・進んであいさつができるようにするために、あいさつをする理由を子どもたちに考えさせる機会があるとよい。
・縦割り活動で異学年と交流することで、よりつながりが深められるよう期待する。

○元気でたくましい子(健やかな体)
・家庭での規則正しい生活が、子どもたちの健やかな体づくりを支えている。
・「元気アップカード」について、子どもたちがより興味もてるような工夫があるとよい。また、子どもたちと保護者をつなぐものであるとよい。

○開かれた信頼される学校づくり
・学校で配付される文書を、なるべく情報発信ツールでも出してほしい。紙でもらっても、保護者に届かないことがある。
・保護者が参加できる行事があるとよい。かつて志水小で「チャレラン大会」があったが、そういったものをもう一度できないか。授業も参観したいが、子どもたち同士の交流の様子も見たい。

○教職員の資質向上
・今後もより良い授業に向けて、取り組みを続けていただきたい。

○業務改善に向けた職場環境の整備
・今後も先生方が一人で悩みを抱え込まない体制をつくってほしい。
・業務の負担が一定の方に偏らないようにしてほしい。
・職場に復帰された先生が、業務に少しでもスムーズに戻れるようにお願いしたい。